

授業概要

本講義では、大正末から昭和初期にかけて現出した政党政治の時代に焦点を当て、その成立と崩壊の過程を検証する。「大正デモクラシー」状況の帰結として確立したかに見えた、この政党政治の時代はわずか8年ばかりで終焉を迎えることになった。民衆の期待を担ったはずの政党政治はなぜ挫折を余儀なくされたのか。その要因を、政党自体が抱えた問題点とともに、軍部、宮中、メディアなどの動向を視野に入れながら明らかにしていきたい。

なお、適宜ビデオ教材も使用しつつ、授業内容への理解を深めていくこととする。

授業計画

| | |
|--------|------------------------------------|
| 第 1 回 | 授業の進め方の説明 |
| 第 2 回 | 大政友会分裂と護憲三派の形成 |
| 第 3 回 | 政党政治の全盛期 |
| 第 4 回 | 昭和史を変えた一枚の写真 |
| 第 5 回 | 劇場型政治の帰結 |
| 第 6 回 | 民政党の成立と本格的二大政党政治の開始 |
| 第 7 回 | 政党外勢力による「不健全な倒閣」 |
| 第 8 回 | 疑獄事件の頻発と第二回普選 |
| 第 9 回 | 天皇・宮中・メディアによって支えられた内閣 ① ロンドン海軍軍縮条約 |
| 第 10 回 | 天皇・宮中・メディアによって支えられた内閣 ② 統帥権干犯問題 |
| 第 11 回 | 追いつめられていた陸軍 |
| 第 12 回 | 陸軍の台頭とメディアの大旋回 ① 満州事変 |
| 第 13 回 | 陸軍の台頭とメディアの大旋回 ② 政党政治の危機 |
| 第 14 回 | テロの続発と政党の危機意識欠如 |
| 第 15 回 | 五・一五事件と政党内閣の終焉 |
| 第 16 回 | 筆記試験 |

到達目標

- (1) 戦前期の政党政治の崩壊要因を理解する。
- (2) 政党政治の挫折の歴史から現代の政党政治に通ずる問題点を見出す力を身につける。

履修上の注意

- (1) 歴史に興味のある学生を対象としていることを特に強調しておきたい。
- (2) 遅刻 3 回で欠席 1 回と見なす。
- (3) 授業中の「私語」は厳禁

予習・復習

- (1) 授業で取り上げるテキストの箇所は、授業内容を理解しやすくするためにも、毎回必ず事前に読むなどの予習を徹底すること。
- (2) 授業の理解度をチェックするための小テストを適宜実施するので、復習を心がけること。

評価方法

学期末試験〔論述形式〕70%と小テスト 30%の合計点で成績評価を行う。

テキスト

- ・教科書名：『昭和戦前期の政党政治』
- ・著者名：筒井清忠
- ・出版社名：ちくま新書
- ・出版年 (ISBN)：2012 年 (978-4-480-06687-9)